

# 「科学から人間を考える」試み

## 第1回「科学と哲学を考える」

講師： 矢倉 英隆（パリ大学ディドロ、科学知専攻）

日時： 2011年11月24日（木）、午後6時半～8時

会場： Carrefour カルフル会議室（定員約20名）

東京都渋谷区恵比寿 4-6-1 恵比寿 MFビル B1

電話： 03-3445-5223 HP: <http://ebisu-carrefour.com/>



アクセス： <http://ebisu-carrefour.com/map.html>

### 参加費

高校生・大学生： 無料

一般の方： 1,000円

その他、会場で飲み物1杯の注文をお願いします。

「科学から人間を考える」サイトもご覧ください <http://yakurajuku.blogspot.com/>

参加のご希望の方は下記までお知らせいただければ幸いです

[hide.yakura@orange.fr](mailto:hide.yakura@orange.fr)

## 講師の紹介と挨拶



講師：矢倉 英隆

東京都医学研究機構において免疫学の研究生生活を終える

この間、首都大学東京客員教授、パリにあるパスツール研究所招聘教授などを務める

2007年、科学を広い視野から見直し、人間存在について思索するためパリに渡る

2007年-09年、パリ第1大学パンテオン・ソルボン又修士課程（科学哲学）修了

2009年からはパリ大学ディドロ博士課程（科学知専攻）で研究を継続中

科学、生命科学を取り巻く問題について考えている

これまでに学会や大学での講演を通して哲学的思索の重要性を語ってきましたが、その過程で研究者の枠を超えた場で話す必要性を感じるようになりました。科学や哲学の問題はわたしたちの生そのものと不可分であり、それを学問の世界に留めておくのではなく、わたしたちの日常に取り戻さなければならないと考えたからです。この会では次のようなことについて考える予定にしています。

- (1) 哲学をどのように見ればよいのか
- (2) 科学とはどのような営みなのか
- (3) 哲学は科学に何ができるのか、そして科学は哲学から何を学ぶべきなのか
- (4) 科学的、哲学的な考え方はわたしたちの日常にどのような意味を持つのか

これらの問に対して、哲学や科学の細かい知識を求めるのではなく、それぞれの営みがどのようなものであり、その間の関係はどう考えられてきて、これからどうあるべきなのかという広い視点から考えます。その上で、そこで考えたことをどのようにわたしたちの日常生活で使っていくのかという実践の問題についても立ち返りたいと思います。

このような問題に興味をお持ちの方、今一度立ち止まり「もの・こと・ひと」について考える時間を望まれる方、高校生・大学生などの幅広いご参加を歓迎いたします。